

世界工学団体連盟（WFEO）と日本の活動

世界工学団体連盟（WFEO, www.wfeo.org）は、1968年に設立された世界各国の工学系協会や広域的な工学団体を加盟団体とする国際的非政府組織（NGO）である。WFEOは、工学に関する各種専門委員会の活動を通じて国際的な工学の発展と普及を推進し、UNESCOを始めとする国連機関との関係を緊密に保ちつつ、様々な独自・共同プロジェクトを実施することで、工学を通して全世界の平和の推進、経済・社会の発展のために貢献してきた。WFEO本部はUNESCO本部内（パリ）に設置され、2016年現在、WFEO加盟メンバーは、世界約90カ国・地域を代表する工学系協会（National Members: 米国、英国、仏、中国、インド、日本、韓国、マレーシア、フィリピン、シンガポール、台湾等）や約10の国際工学団体（International Members: アジア・太平洋工学団体連盟、全米、欧州地域工学団体連盟など）を会員として、また地域限定の工学関連機関などを準会員（Associate Members）として構成される。それらのメンバーは、世界中の約2000万人の技術者を代表している。

近年のWFEOの活動では、1年に二回の執行委員会・理事会会合、2年に一回の総会と世界コンGRESS、4年に一回の世界工学会議を開催している。また、主に常設専門技術委員会（環境、情報、エネルギー、教育、防災など10委員会）の活動を通して実践的、且つ専門的に工学全般の進展と普及のための活動を行っている。

近年の日本の活動については、内閣府所轄の日本学術会議（学術会議）がNational Member、公益社団法人日本工学会（日本工学会）がAssociate Memberとなっており、隔年に開催される総会に参加し、日本の工学のプレゼンスの向上に努めている。学術会議と日本工学会が中心となり、2015年京都で第5回世界工学会議（WECC2015）が開催された。WECC2015は、防災、エネルギー、社会インフラ、教育などに関する工学テーマのプログラムで3日間に亘ってとり行われた。WECC2015では約700件の基調講演・口頭発表・ポスター発表、ならびに約100社からの展示があり、世界70の国・地域から約2000名、関連行事に約1000名の参加を得て、成功裡に終了した。

さらに、専門技術委員会の1つである災害リスク管理委員会（現委員長：小松利光、水災害・地震災害・人材育成の3つの小委員会を有する）は、2009年以降、日本がホスト国となり防災・減災に関する技術・手法の開発を推進、国内外の工学系学術機関・協会等と共同で国際シンポジウムを毎年開催、加えて防災・減災に関与する国連機関（例：UNESCO）や国際NGO（例：IRDR）等との連携を強めている。この専門委員会の活動もまた防災面で国際的に貢献するだけでなく日本のプレゼンスをも高めるものである。

注：2016年現在の状況を記述した。

略記：

IRDR= Integrated Research on Disaster Risk（災害リスク統合研究）

<http://www.icsu.org/what-we-do/interdisciplinary-bodies/irdr>

UNESCO=United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization（ユネスコ）

<http://en.unesco.org/>

WFEO =World Federation of Engineering organizations（世界工学団体連盟）

<http://www.wfeo.org/>

WECC2015= World Engineering Conference and Convention (世界工学会議 2015)

<http://www.ifes.or.jp/wecc2015/jp/index.html>